

# 宿 泊 約 款

## (適用範囲)

- 第1条 当ホテルが宿泊客との間で締結する宿泊契約及びこれに関連する契約は、この約款の定めるところによるものとし、この約款に定めのない事項については、法令又は一般に確立された慣習によるものとし、
2. 当ホテルが、法令及び慣習に反しない範囲で特約に応じたときは、前項の規定にかかわらず、その特約が優先するものとし、

## (宿泊契約の申込み)

- 第2条 当ホテルに宿泊契約の申込みをしようとする者は、次の事項を当ホテルに申し出ていただきます。
- (1) 宿泊者名  
(2) 宿泊日及び到着予定時刻  
(3) 宿泊料金（原則として別表第1の基本宿泊料による。）  
(4) その他当ホテルが必要と認める事項
2. 宿泊客が宿泊中に前項第2号の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、当ホテルは、その申し出がなされた時点で新たな宿泊契約の申し込みがあったものとして処理します。

## (宿泊契約の成立等)

- 第3条 宿泊契約は、当ホテルが前条の申し込みを承諾したときに成立するものとし、
- ただし、当ホテルが承諾をしなかったことを証明したときは、この限りではありません。
2. 前項の規定により宿泊契約が成立したときは、宿泊期間（3日を超えるときは3日間）の基本宿泊料を限度として当ホテルが定める申込金を、当ホテルが指定する日までに、お支払いいただきます。
3. 申込金は、まず、宿泊客が最終的に支払うべき宿泊料金に充当し、第6条及び第18条の規定を適用する事態が生じたときは、違約金に次いで賠償金の順序で充当し、残額があれば、第12条の規定による料金の支払いの際に返還します。
4. 第2項の申込金を同項の規定により当ホテルが指定した日までにお支払いいただけない場合は、宿泊契約はその効力を失うものとし、
- ただし、申込金の支払期日を指定するに当たり、当ホテルがその旨を宿泊客に告知した場合に限り、

## (申込金の支払いを要しないこととする特約)

- 第4条 前条第2項の規定にかかわらず、当ホテルは、契約の成立後同項の申込金の支払いを要しないこととする特約に応じることがあります。
2. 宿泊契約の申し込みを承諾するに当たり、当ホテルが前条第2項の申込金の支払いを求めなかった場合及び当該申込金の支払期日を指定しなかった場合は、前項の特約に応じたものとして取り扱います。

## (宿泊契約締結の拒否)

- 第5条 当ホテルは、次に掲げる場合において、宿泊契約の締結に応じないことがあります。
- (1) 宿泊の申し込みが、この約款によらないとき。  
(2) 満室により客室の余裕がないとき。  
(3) 宿泊しようとする者が、宿泊に關し、法令の規定、公の秩序若しくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき。  
(4) 宿泊しようとする者が、次のイからハに該当すると認められるとき。  
イ 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成33年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団（以下「暴力団」という。）、同条第2条第6号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という。）、暴力団準構成員又は暴力団関係者その他の反社会的勢力  
ロ 暴力団又は暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であるとき  
ハ 法人でその役員の中に暴力団員に該当する者があるもの
- (5) 宿泊しようとする者が、他の宿泊客に著しい迷惑を及ぼす言動をしたとき。  
(6) 宿泊しようとする者が、伝染病者であると明らかに認められるとき。  
(7) 宿泊に關し暴力的要求行為が行われ、又は合理的な範囲を超える負担を求められたとき。  
(8) 天災、施設の故障、その他やむを得ない事由により宿泊させることができないとき。  
(9) 香川県旅館業法施行条例第11条の規定する場合に該当するとき。

## (宿泊客の契約解除権)

- 第6条 宿泊客は、当ホテルに申し出て、宿泊契約を解除することができます。
2. 当ホテルは、宿泊客がその責めに帰すべき事由により宿泊契約の全部又は一部を解除した場合（第3条第2項の規定により当ホテルが申込金の支払期日を指定してその支払いを求めた場合であって、その支払いより前に宿泊客が宿泊契約を解除したときを除きます。）は、別表第2に掲げるところにより、違約金を申し受けます。ただし、当ホテ

ルが第4条第1項の特約に応じた場合にあつては、その特約に応じるに当たつて、宿泊客が宿泊契約を解除したときの違約金支払義務について、当ホテルが宿泊客に告知したときに限ります。

3. 当ホテルは、宿泊客が連絡をしないで宿泊日当日の午後8時（あらかじめ到着予定時刻が明示されている場合は、その時刻を2時間経過した時刻）になつても到着しないときは、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなし処理することがあります。

## (当ホテルの契約解除権)

- 第7条 当ホテルは、次に掲げる場合においては、宿泊契約を解除することがあります。
- (1) 宿泊客が宿泊に關し、法令の規定、公の秩序若しくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき、又は同行為をしたと認められるとき。  
(2) 宿泊客が次のイからハに該当すると認められるとき。  
イ 暴力団、暴力団員、暴力団準構成員又は暴力団関係者その他の反社会的勢力  
ロ 暴力団又は暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であるとき  
ハ 法人でその役員の中に暴力団員に該当する者があるもの
- (3) 宿泊客が他の宿泊客に著しい迷惑を及ぼす言動をしたとき。  
(4) 宿泊客が伝染病者であると明らかに認められるとき。  
(5) 宿泊に關し暴力的要求行為が行われ、又は合理的な範囲を超える負担を求められたとき。  
(6) 天災等不可抗力に起因する事由により宿泊させることができないとき。  
(7) 香川県旅館業法施行条例第11条の規定する場合に該当するとき。  
(8) 寢室での寝たばこ、消防用設備等に対するいたずら、その他当ホテルが定める利用規則の禁止事項（火災予防上必要なものに限る。）に従わないとき。
2. 当ホテルが前項の規定に基づいて宿泊契約を解除したときは、宿泊客がまだ提供を受けていない宿泊サービス等の料金はいただきません。

## (宿泊の登録)

- 第8条 宿泊客は、宿泊日当日に当館フロントにおいて、次の事項を登録していただきます。
- (1) 宿泊客の氏名、年齢・性別・住所・連絡先・車両番号  
(2) 日本国籍を有さない宿泊客は、上記の他に国籍・旅券番号・入国地及び入国年月日  
(3) 出発日及び出発予定時刻  
(4) その他当ホテルが必要と認める事項
2. 団体旅行等の場合は、前項の内容を事前に通知することにより、宿泊日当日の手続きを省略することがあります。
3. 登録事項においては、当ホテルが別に定める「個人情報マニュアル」に沿つて適正に管理し法令遵守致します。但し、当ホテルが宿泊サービスを行う上で、宿泊客の為に必要であると判断した場合は、他関係機関へ一部情報をお知らせすることがあります。
4. 宿泊客が第12条の料金の支払いを、旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等通貨に代わり得る方法により行おうとするときは、あらかじめ、前項の登録時にそれらを呈示していただきます。

## (客室の使用時間)

- 第9条 宿泊客が当ホテルの客室を使用できる時間は、午後3時から翌朝10時までとします。ただし、連続して宿泊する場合には、到着日及び出発日を除き、終日使用することができます。
2. 当ホテルは前項の規定にかかわらず、同項に定める時間外の客室の使用に応じることがあります。この場合には次に掲げる追加料金を申し受けます。
- (1) 超過2時間までは、室料金の25%  
(2) 超過5時間までは、室料金の50%  
(3) 超過5時間以上は、室料金の100%  
(3. 前項の室料相当額は、基本宿泊料の70%とします)

## (利用規則の遵守)

- 第10条 宿泊客は、当ホテル内においては、当ホテルが定めてホテル客室内に設置した利用規則に従つていただきます。

## (営業時間)

- 第11条 当ホテルの主な施設等の営業時間は次の通りとし、その他の施設等の詳しい営業時間は備え付けのパンフレット、各所掲示、客室内のインフォメーション等でご案内いたします。
- ① フロント・キャッシャー等サービス時間  
イ：門 限 24時  
ロ：フロント・キャッシャーサービス 7時～24時

ハ：小豆島内の各港からホテル間の送迎サービス  
8時30分ホテル出発～18時ホテル到着

② レストラン施設サービス時間

イ：朝食 7時～9時  
ロ：昼食 11時30分～14時  
ハ：夕食 18時～21時

③ 宴会場施設サービス時間

イ：昼食 11時30分～14時  
ロ：夕食 18時～22時

④ その他付帯施設サービス時間【事前予約が必要になります】

イ：リラクゼーションサロン 15時～24時（最終受付時間 23時）  
ロ：個室露天風呂 10時～24時（最終受付時間 23時）

- 前項の時間は、必要やむを得ない場合には臨時に変更することがあります。その場合は、適当な方法をもってお知らせいたします。
- 一部施設の延長利用につきましては、別途有料となります。

(料金の支払い)

第12条 宿泊者が支払うべき宿泊料金等の内訳は、別表第1に掲げるところによります。

- 前項の宿泊料金等の支払いは、通貨又は当ホテルが認めた旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等これに代わり得る方法により、宿泊客の出発の際又は当ホテルが請求したとき、フロントにおいて行っていただきます。
- 当ホテルに3連泊以上ご宿泊の場合は、3泊毎に前項2と同様の対応をさせていただきます。
- 当ホテルが宿泊客に客室を提供し、使用が可能になったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金は申し受けず。

(当ホテルの責任)

第13条 当ホテルは、宿泊契約及びこれに関連する契約の履行に当たり、又はそれらの不履行により宿泊客に損害を与えたときは、その損害を賠償します。ただし、それが当ホテルの責めに帰すべき事由によるものでないときは、この限りではありません。

- 当ホテルは、万一の火災等に対処するため、旅館賠償責任保険に加入しております。

(契約した客室の提供ができないときの取扱い)

第14条 当ホテルは、宿泊客に契約した客室を提供できないときは、宿泊客の了解を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設をあっ旋するものとします。

- 天災等不可抗力に起因する事由並びに当ホテルの責めに帰すべき事由がないときは、前項1の取扱いをしないものとします。
- 当ホテルは、前項の規定にかかわらず他の宿泊施設のあっ旋ができないときは、違約金相当額の補償料を宿泊客に支払い、その補償料は損害賠償額に充当します。ただし、客室が提供できないことについて、当ホテルの責めに帰すべき事由がないときは、補償料を支払いません。

(寄託物等の取扱い)

第15条 宿泊客がフロントにお預けになった物品又は現金並びに貴重品について、滅失、毀損等の損害が生じたときは、それが、不可抗力である場合を除き、当ホテルは、その損害を賠償します。ただし、現金及び貴重品については、当ホテルがその種類及び価額の申告を求めた場合であって、宿泊客がそれを行わなかったときは、当ホテルは15万円を限度としてその損害を賠償します。

- 宿泊客が、当ホテル内にお持ち込みになった物品又は現金並びに貴重品であってフロントにお預けにならなかったものについて、当ホテルの故意又は過失により滅失、毀損等の損害が生じたときは、当ホテルは、その損害を賠償します。ただし、宿泊客からあらかじめ種類及び価額の申告のなかったものについては、当ホテルに故意又は重大な過失がある場合を除き、15万円を限度として当ホテルはその損害を賠償します。

(宿泊客の手荷物又は携帯品の保管)

第16条 宿泊客の手荷物が、宿泊に先立って当ホテルに到着した場合は、その到着前に当ホテルが了解したときに限って責任をもって保管し、宿泊客がフロントにおいてチェックインする際お渡します。

- 前項の手荷物については、事前に内容物を連絡しただけでなかった場合については、当ホテルの責を問わないこととします。
- 前項1・2の内容物の中で次のものは、一切の預かりはできません。
  - 宅配会社の引き受けできないもの全て
  - 生鮮食料品等の腐食の可能性のあるもの
  - 火気類
  - その他、法令上、厳重な保管管理が必要なもの
- 宿泊客がチェックアウトしたのち、宿泊客の手荷物又は携帯品が当ホテルに置き忘れられていた場合において、連絡が必要と判断したときは、当ホテルは、当該所有者に連絡をするとともにその指示を求め

るものとします。ただし、所有者の指示がない場合又は所有者が判明しないときは、発見日を含めて7日間保管し、その後しかるべき処理を行います。

- 手荷物又は携帯品の保管について、当ホテルの責任は、前項4の期間内に準ずるものとします。

(駐車場の責任)

第17条 宿泊客が当ホテルの駐車場をご利用になる場合・車両のキーの寄託の如何にかかわらず、当ホテルは場所をお貸しするものであって、車両の管理責任まで負うものではありません。

ただし、駐車場の管理に当たり、当ホテルの故意又は過失によって損害を与えたときは、その賠償の責めに任じます。

- 駐車場内での宿泊客同士での事故等につきましては、該当の宿泊客同士での解決を行っていただきます。当ホテルは一切の関係を持ちません。

(宿泊客の責任)

第18条 宿泊客の故意又は過失により当ホテルが損害を被ったときは、当該宿泊客は当ホテルに対し、その損害を賠償していただきます。

- 宿泊客が、日本国内の法令並びに地方自治体の条例に反し、他の宿泊客並びに従業員に被害を被ったときは、当該宿泊客を必要に応じて関係機関への連絡をさせていただきます。
- レストラン・宴会サービスのみを利用する客についても、同約款を適用とします。その際は、宿泊客を利用客と読み替えることとします。

(宿泊客見舞金規程)

第19条 当ホテルは、当ホテルの宿泊客が当ホテル宿泊中に傷害以外の事由により死亡した場合には、別に定める宿泊客見舞金規程に記載の事項を実施いたします。

別表第1 宿泊料金等の内訳（第2条第1項及び第12条第1項関係）

		内 訳
宿泊客が支払うべき総額	宿泊料金	① 基本宿泊料（室料（及び室料+朝食等の飲食料）） ② サービス料（①×10%）
	追加料金	③ 追加飲食（①に含まれるものを除く） ④ サービス料（③×10%）
	税金	イ 消費税 ロ 入湯税
	金	

- 備考1 基本宿泊料は当館の定める料金表によります。
- 子供料金は小学生以下に適用し、大人に準じる食事と寝具等を提供したときは大人料金の70%、子供用食事と寝具を提供したときは50%、寝具のみを提供したときは30%をいただきます。  
寝具及び食事を提供しない3歳～6歳までの未就学幼児については、施設使用料をいただきます。  
なお、2歳以下の幼児については施設使用料を免除いたします。

別表第2 違約金（第6条第2項関係）……旅館用

契約解除の通知を受けた日 契約申込人数 契約申込室数	契 約 解 除 日												
	不泊	当日	前日	2日前	3日前	5日前	6日前	7日前	8日前	14日前	15日前	20日前	30日前
1名～14名まで 1室～4室まで	100%	100%	50%	30%	30%								
15名～30名まで 5室～10室まで	100%	100%	50%	30%	30%	30%	10%	10%					
31名～100名まで 11室～30室まで	100%	100%	80%	50%	30%	30%	20%	20%	10%	10%			
101名以上 31室以上	100%	100%	80%	50%	50%	30%	30%	30%	15%	15%	10%	10%	10%

- (注) 1. %は、基本宿泊料に対する違約金の比率です。  
2. 違約金は、契約申込人数ならびに契約申込室数の高いランクが適用されます。  
3. 契約日数が短縮した場合は、その短縮日数にかかわらず、1日分(初日)の違約金を収受します。  
4. 団体客(15名以上)の一部について契約の解除があった場合、宿泊の10日前(その日より後に申込みをお引き受けした場合にはそのお引き受けした日)における宿泊人数の10%(端数が出た場合には切り上げる。)に当たる人数については、違約金はいただきません。